

今回は、『生きるチカラ』（植島啓司）から「成功と失敗」について考えてみたい。
まず、同書から引用する。

人生は成功と失敗のくりかえしとはよくいわれることだが、いったい何が成功で何が失敗かはすぐに判別がつかないことが多い。その点について、以前、カズことサッカーの**三浦知良**選手がインタビューに答えた次の言葉がとりわけ印象深い。

「現在のカズさんの正直な気持ちとして、**不安はないですか？**シーズン終了後、成功していればいいけど、もし結果を残せなかったらどうしよう、というような…」と聞かれて、彼は次のように答えている。

最近、何が成功で、何が失敗なのか、と考えることがあるんだ。

試合に出てゴールを決められれば成功で、試合に出られなければ失敗なのか、と…。

周囲の判断基準は確かにそういう所にあるかもしれないけど、

僕の中での“成功”の価値観は少し違っているような気がする。

例えば、イタリアリーグで二十点入れればそれが一番の成功かもしれない。しかし、苦しんで三、四点ゴールを決められれば、それも成功に値するものではないか、と。

失敗して、叩かれて、それで人間大きくなれることだってあるでしょう？

なおかつ、そこから頑張っているいいプレーをすることが自分を成長させることになるんじゃない？



僕は今、見当も付かない先のことで『成功』と『失敗』を思い悩んだりはしない。

自分が**ポジティブ**になって全てを受け入れられれば、成功じゃないかと自分では思っている。

で、僕は必ずそうできる。だから、**失敗はない**っていうこと。

『MARCO 1995年1月号』

植島氏は、「成功と失敗」について次のように述べる。

まず、あなたがなによりも考えなければならないことは、
生きるのに「正しい」も「間違い」もないということである。

あなたが選んだ生き方がそのままあなたの人生なのだ。

いくら後悔してもやり直すことはできない。だれもが失敗を犯している。そんなことくよくよしても仕方がない。それをどう受け取るかということである。

いや、果たしてそれが失敗だったのかどうかということまで含めて
考え直さなければならないだろう。

いったい成功とか失敗とかって何を基準に考えるのか。

自分にとっての成功が本当の成功とは縁遠いものであったり、

失敗が後に大きな実りをもたらしたりすることもあるだろう。

むしろ、失敗と思われたことから、それぞれの**人生が立ち上がる**ことになる。

「なるほど！」と思いはするが、「全てのことをポジティブに受け入れる」ことは難しい。しかし、それを意識して生活することによって、私たちの持っている可能性が広がっていくことは間違いない。